国語

令和5年度 多摩市立鶴牧中学校 授業改善推進プラン 教科名

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・我が国の言語文化に親しんだり理解したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考え、深く共感したり豊かに想像したりする力 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりする力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく使用する力に課題がある。書字障害のため、書くことに困難を覚える生徒が複数いる。ア ・根拠を明確にしなが、自分の考えを伝える文章を書くことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに漢字テストを行う。手書きとタブレット端末を併用して作文等を提出させ、添削を行う。 ・段落の役割に着目しながら文章を読ませ、事実やそれを基に考えたことを考えたことを書く活動をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月～ ・9月～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙の知識は増えたが、作文等ではまだ誤字が目立つ。知識を自らの表現に生かすことが今後の課題である。 ・根拠を明確にすることを意識して意見文を書くようになった。適切な課題を与えることにより、表現することを楽しむようになってきた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく使用する力や語句に関する知識に課題がある。ア ・自分の考えや解答を文章に記述して表現する力に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに漢字テストを行う。授業中に語句調べや短文づくりを行う。 ・自分の考えを書く時間を授業中に設け、提出・添削を行う。また、互いの文章を読み合い、他者の表現から学ぶ機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月～ ・9月～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙の知識が増えた。知識を自らの表現に生かすことが今後の課題である。 ・根拠を明確にすることを意識して意見文を書くようになった。適切な課題を与えることにより、表現することを楽しむことができる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字や語句に関する知識を、自らの表現に生かすことに課題がある。ア イ ・話す・書くなどの学習活動に前向きに取り組むが、目的や意図に応じた表現を工夫することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の文章を読み直して、表現が適切かつ効果的であるか確認させる。互いの作品を読み合い、他者の表現から学ぶ機会を設ける。 ・先哲のものの方や考え方を読み取り、自分の考えと比較することで考えを深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月～12月 ・1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した知識や語句に関する知識を自らの表現に生かすことができるようになった。 ・話す・書くなどの学習活動において、目的や意図に応じた表現を工夫するようになってきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

1年	自分の考えを相手に分かりやすく伝える。端末を活用して課題を提出し、作品を読み合い学びを深める。【重点:個別・協働】
2年	課題に対して自分やグループの意見を提出し、共有する活動の補助。視覚資料による文章理解の補助。【重点:協働】
3年	端末を活用して互いの作品を読み合い、批評的な視点で意見を述べ合う。視覚資料による文章理解の補助。【重点:協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年	授業ごとにめあてを明確にし、ノート指導を通じて振り返りや自主学習の指導を行う。
2年	授業ごとにめあてを明確にし、ノート指導を通じて振り返りを行う。
3年	授業ごとにめあてを明確にし、ノート指導を通じて振り返りを行う。